補足資料

令和６年のアユ遡上数に影響した要因

令和６年の多摩川におけるアユの推定遡上数は 37 万尾となり、昨年よりも減少した。アユは年魚であり、遡上数は年により大きく変動することが知られているが、本年における減少の要因は、以下のことが考えられる。

〇アユの産卵期にあたる 10 月～12 月の月別合計降水量が、いずれの月も過去 5 年平均を下回る値だった。（裏面参照）

〇産卵期の水温が高くなり、アユの産卵が始まるとされる 20℃を下回るようになったのが 11 月以降だった一方、12 月下旬には産卵適水温の下限とされる 14℃まで下がり、アユの産卵に適した期間が短かった。

〇増水による河床の撹拌が弱く、アユの産卵場に砂泥が堆積し、産卵に適した環境が少なかった。

10 月 23 日の河床

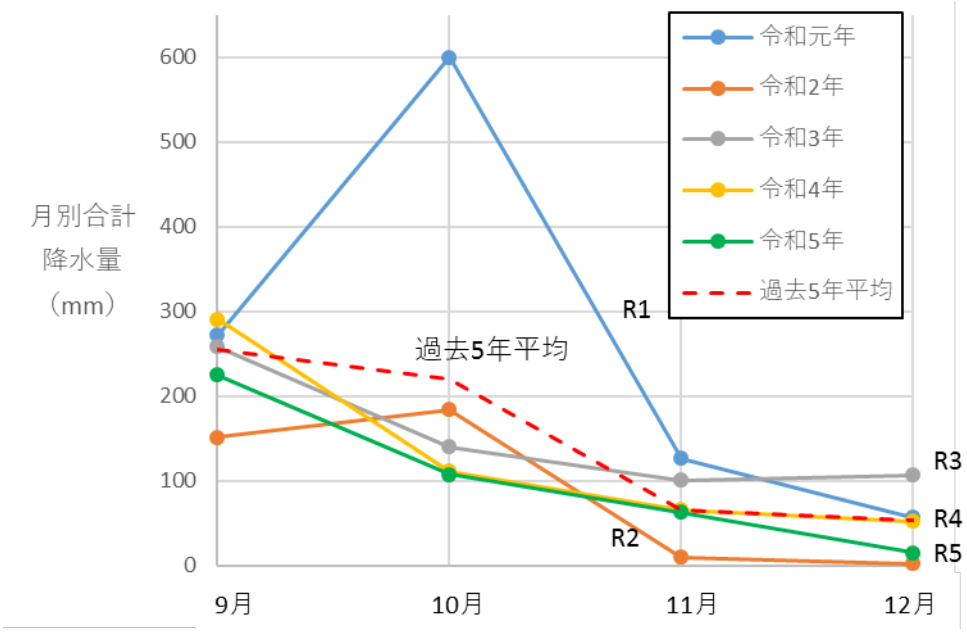
11 月 14 日の河床

このような影響から、今年の遡上数は昨年より少なくなったものと考えられた。なお、荒川、利根川といった他河川の遡上数も昨年より減少傾向である。（裏面参照）

アユの生態

・寿命は１年。
・産卵期は秋で、下流域の砂礫底で産卵が行われる。
・卵からふ化した仔アユはすぐに海へ流下し、冬の間を海で過ごす。
・春に川を遡上し、夏は川の上流～中流域で成長して、秋に川をくだり、産卵する。

＜過去５年間におけるアユ産卵期の月別合計降水量＞



（気象庁 HP における府中の観測値を引用）

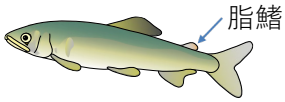
＜参考：他河川の遡上状況＞

	令和6年　5月20日	令和5年　5月20日
利根川	**11,011尾**	**73,931尾**
	令和6年　5月10日	令和5年　5月10日
荒川	**61,725尾**	**101,010尾**

（水資源機構 HP を参照）

※１：他河川における遡上数の前年からの増減傾向と比較するため、参考に掲載しています。

※２：本多摩川の遡上調査とは、調査方法が異なるため、遡上数の単純な比較はできません。

＜入網率の求め方＞

約 4000 尾のアユの脂鰭（あぶらびれ）を切って目印をつけ、定置網の下流に放流し、そのうち定置網に入ったアユの割合から求めた。この調査は平成 21～30 年に実施したが、そのうち最も大きい入網率（5.4%）を採用し、遡上数の過大評価を避けている。